



令和3年1月19日

東京都千代田区四番町5番地3
科学技術振興機構（JST）
Tel : 03-5214-8404（広報課）
URL <https://www.jst.go.jp>

ムーンショット型研究開発事業 新たな目標検討のためのビジョン公募 目標検討チームの決定について

JST（理事長 濱口 道成）は、ムーンショット型研究開発事業において新たなムーンショット目標候補案を検討するチームを決定しました（別紙1）。

ムーンショット型研究開発事業は、超高齢化社会や地球温暖化問題など重要な社会課題に対し、人々を魅了する野心的な目標（ムーンショット目標）を国が設定し、挑戦的研究開発を推進すべき分野・領域などとして文部科学省により定められた研究開発構想に基づき、研究開発を推進するものです。JSTでは、すでに決定された7つのムーンショット目標のうち、4つのムーンショット目標を担当し、その達成を目指した19の研究開発プロジェクトを推進しています。

一方、わが国は新型コロナウイルス感染症の影響により、今後の社会が急速かつ著しく変容していくことが想定されます。ポストコロナ／アフターコロナ時代における社会像を明確化し、目まぐるしく変化する経済社会情勢に対応すべく、新たなムーンショット目標を検討することとなりました。そのためには、今後の時代を担う若手人材による柔軟かつ自由なアイデアや、国内外の多様な知見の取り入れが重要です。そこでJSTは、新たなムーンショット目標のアイデアを持ち、そのアイデアを具体化・精緻化するための調査研究を行う、目標検討チームを公募しました。

公募締め切り後、ビジョナリーリーダーが外部専門家などの協力を得ながら書類選考と面接選考を実施し、応募された129チームから21チームを採択しました（別紙2）。

今後、採択された目標検討チームは、約6ヵ月をかけて、将来の社会経済の課題やあるべき姿（ビジョン）について、さらに議論・調査を深め、目標の達成により実現したい2050年の社会像、目標達成に向けて取り組むべき課題、2050年の社会像からバックキャストした2030年の具体的な達成目標、目標達成に至るシナリオ、検証可能な目標達成基準などを明らかにした報告書を作成します。JSTでは、調査研究の結果を評価した上で、目標検討チームのアイデアのうち、数件をムーンショット目標候補とします。その後、目標候補の内容を踏まえて、総合科学技術・イノベーション会議（CSTI）が最終的なムーンショット目標を決定する予定です。

詳細は下記ホームページを参照してください。

<https://www.jst.go.jp/moonshot/index.html>

<添付資料>

別紙1：採択チーム一覧

別紙2：評価者一覧

参考1：選考の観点

<お問い合わせ先>

科学技術振興機構 挑戦的研究開発プログラム部

〒102-0076 東京都千代田区五番町7 K's 五番町

小西 隆 (コニシ タカシ)

Tel : 03-5214-8419 Fax : 03-5214-8427

E-mail : moonshot-koubo[at]jst. go. jp

※電子メールでお問い合わせください。

採択チーム一覧

(チームリーダー五十音順)

チーム リーダー	サブ リーダー	目標検討 チーム名	2050年の社会像 キャッチフレーズ
秋山 肇 (筑波大学 人文社会系 助教)	浦山 俊一 (筑波大学 生命環境系 助教)	チーム ポスト・アントロポセン	地球が安心できる地球をつくろう。
安藤 清彦 (農業・食品産業技術総合研究機構 動物衛生研究部門 主任研究員)	新井 暢夫 (農業・食品産業技術総合研究機構 動物衛生研究部門 研究員)	動物由来感染症マネジメント検討チーム	動物由来の未知感染症に対するマネジメントシステムを構築し、感染症にレジリエントな社会を実現する
石橋 勇志 (九州大学 大学院農学研究院 准教授)	田島 大地	S A C M O T s	緑の革命2.0
石村 学志 (岩手大学 農学部 准教授)	市野川 桃子 (水産研究・教育機構 水産資源研究所 漁業情報解析部・資源解析グループ長)	地域海洋資源が支える新海洋国家＝日本	地域海洋資源が支える社会経済の多極化による新海洋国家＝日本実現が導く、飢餓と貧困なき全球への始動
稲守 孝哉 (名古屋大学 大学院工学研究科 准教授)	杵淵 紀世志 (名古屋大学 大学院工学研究科 准教授)	「宇宙を誰もが自由にアクセス・利用できる空間へ」検討チーム	宇宙利用のハードウェア・ソフトウェアイノベーション～宇宙を誰もが自由にアクセス・利用できる空間へ
今西 美音子 (株式会社竹中工務店 技術研究所 研究員)	石垣 陽 (電気通信大学 大学院 情報理工学研究科 特任准教授)	F l e x インフラを考える会	人間知×機械知×自然知によるF l e x インフラで、柔軟で安心な「場」と多様な幸せのカタチを
上野 真 (宇宙航空研究開発機構 航空技術部門 主任研究開発員)	阿部 侑真 (情報通信研究機構 ワイヤレスネットワーク総合研究センター 研究員)	C a n d y F a c t o r y	I n f r a s t r u c t u r e P r o j e c t i o n A n y w h e r e 技術でポータブルなインフラを実現
岡田 志麻 (立命館大学 工学部 准教授)	王 天一 (立命館大学 グローバル・イノベーション研究機構 専門研究員)	ウルトラダイバーシティ社会実現チーム	年齢、性別、国籍の制約なく良好な人間関係を時空を超えて構築する孤独ゼロのウルトラダイバーシティ社会

チーム リーダー	サブ リーダー	目標検討 チーム名	2050年の社会像 キャッチフレーズ
熊谷 誠慈 (京都大学 こころ の未来研究センタ ー 准教授)	三浦 典之 (大阪大学 大学院 情報科学研究科 教 授)	Psyche N avigation System による安寧・活力 共存社会実現チ ーム	Psyche Nav igation Syst emによる安寧と活力 が共存する社会の実現
近藤 倫生 (東北大学 大学院 生命科学研究科 教授)	村岡 裕由 (岐阜大学 流域圏 科学研究センター 教授)	生態-社会システ ム共生体化	2050年までに自然 と社会が調和的に接続 され相利的に発展する 強靱な生態-社会共生 体を実現
佐久間 洋司 (大阪大学 基礎工 学部 学部学生)	井上 昂治 (京都大学 大学院 情報学研究科 助 教)	科学技術による 「人類の調和」検 討チーム	思考転写、合意形成、融 和を促進する科学技術 により、個人や集団の分 断が克服され「人類の調 和」が実現
武部 貴則 (横浜市立大学 先 端医科学研究セン ター コミュニケー ション・デザイン・ センター センタ ー長/特別教授)	西井 正造 (横浜市立大学 先 端医科学研究センタ ー コミュニケーシ ョン・デザイン・セ ンター 助教)	ストリート・メデ ィカル・シティ	ヒューマン・セントリッ クな都市の再定義 —全 人類の自己実現追究
長澤 兼作 (横浜国立大学 先 端科学高等研究院 特任教員(准教授))	才田 隆広 (名城大学 理工学 部 准教授)	電解パーソナルグ リッドチーム	パーソナルグリッドで 快適生活を地球でも宇 宙でも
西原 禎文 (広島大学 大学院 先進理工系科学研 究科 教授)	奥原 啓輔 (プラチナバイオ株 式会社 代表取締役 CEO)	「DIGITAL BIOSPHER E」未来共創チ ーム	DIGITAL BIO SPHERE (デジタル 生物圏):「真に新しい物 理」が拓くバイオ産業の ゲームチェンジ
西本 智実 (指揮者・舞台演出 /慶應義塾大学 S FC研究所 上席 所員)	藤井 進也 (慶應義塾大学 環 境情報学部 准教 授)	西本MS音楽感動 共創プロジェクト	2050年までに、音楽 による感動共創によっ て人類社会の持続と幸 福を実現し地球文化の 普遍性を宇宙に響鳴
能村 貴宏 (北海道大学 大 学院工学研究院 准教授)	石井 一英 (北海道大学 ロバ スト農林水産工学国 際連携教育拠点 代 表・教授)	Moon Vil lage~HO・ DO・HO・DO	マルチスケールなエネ ルギー収穫と貯蔵によ るHO・DO・HO・D Oの分散ネットワーク 社会で第二の故郷を!

チーム リーダー	サブ リーダー	目標検討 チーム名	2050年の社会像 キャッチフレーズ
樋口 ゆり子 (京都大学 大学院薬学研究科 准教授)	松下 智直 (京都大学 大学院理学研究科 教授)	Intelligent Living Cell~ 究極の個別化医療の実現~	若手研究者の分野横断的連携により実現される「診断から治療を自宅で受ける究極の個別化医療」
藤原 幸一 (名古屋大学 大学院工学研究科 准教授)	藤田 卓仙 (慶應義塾大学 医学部 特任講師)	埋込サイボーグ技術社会実装検討チーム	サイボーグ技術によって身体を再定義し、自己の能力を従来の人々の限界を超えて高め誰もが自己実現できる社会
筆保 弘徳 (横浜国立大学 教育学部 教授)	鹿渡 俊介 (デロイト トーマツ コンサルティング 合同会社 マネジャー)	タイフーンショット	2050年までに、台風の「脅威」を「恵み」に変換し資源活用することで安心かつ安定した持続可能な社会を実現
三好 建正 (理化学研究所 計算科学研究センター チームリーダー)	澤田 洋平 (東京大学 大学院工学系研究科 准教授)	気象制御可能性検討チーム	2050年までに、気象を制御し、豪雨や台風などの気象災害の恐怖から解放された社会を実現
吉田 慎哉 (東北大学 大学院工学研究科 特任准教授)	林 宣伶 (Knots associates 株式会社 Engagement Booster)	子孫繁栄社会構築チーム	望めば誰もが、将来に夢と希望を持って、子供を産み育てられる社会。

評価者一覧

	氏名	所属・役職
ビジョナリーリーダー (総括)	渡辺 捷昭	前 トヨタ自動車株式会社 代表取締役社長
ビジョナリーリーダー (副総括)	足立 正之	株式会社堀場製作所 代表取締役社長
	天野 浩	名古屋大学 未来材料・システム研究所 教授
	久能 祐子	S & R財団 理事長(米国)、Halcyon 共同創設者 兼 理事(米国)、京都大学 理事(非常勤)
外部有識者	稲見 昌彦	東京大学 総長補佐／先端科学技術研究センター教授
	奥乃 博	京都大学 名誉教授
	落合 誠	東芝エネルギーシステム株式会社 エネルギーシステム技術開発センター ゼネラルマネージャー
	加納 敏行	日本電気株式会社 データサイエンス研究所 上席技術主幹
	久保田 孝	宇宙航空研究開発機構 宇宙科学研究所 教授
	櫻井 博儀	理化学研究所 仁科加速器科学研究センター センター長
	祖父江 元	愛知医科大学 理事長・学長
	高田 礼人	北海道大学 人獣共通感染症リサーチセンター教授
	野原 佐和子	株式会社イプシ・マーケティング研究所 代表取締役社長
	萩田 紀博	大阪芸術大学 アートサイエンス学科 学科長・教授
	福田 敏男	名城大学 大学院理工学研究科 教授

	藤沢 久美	シンクタンク・ソフィアバンク 代表
	松本 和彦	大阪大学 産業科学研究所 特任教授
	森 俊介	東京理科大学 名誉教授
	和田 雅昭	公立はこだて未来大学 システム情報科学部 教授

選考の観点

選考は、主に以下の観点などに基づき総合的に実施しました。

(1) 調査研究の対象となる目標候補案の重要性

- ① 実現したい2050年の社会像を描こうとする気概が見られるか
 - 1 現在の社会をいかに洞察し、どのような未来像を予測するか。
 - 2 実現したい2050年の社会像はどのようなものか。
 - 3 目標候補案によって、いかにして理想の2050年の社会像を実現するか。
- ② 提案する目標候補案はInspiringか
 - 1 目的や緊要性が明確に理解できるか。
 - 2 実現すれば将来の産業・社会に大きなインパクトを与えることが期待できるか。
 - 3 多くの国民や海外と価値観を共有できるものか。
 - 4 わが国の国益や産業競争力の確保に向け、科学者の英知を結集して行うことができるものか。
- ③ 提案する目標候補案はImaginativeか
 - 1 未来の社会システムの変革をも目指すものか。
 - 2 目指している未来の可能性は、多くの国民に明確にイメージできるものか。

(2) 調査研究方法の適切性

- ① 目標達成に向けた取り組みの波及効果に関する調査方法
 - 1 取り組みの必要性や、期待される波及効果を、どのように検証するか。
- ② 必要となる研究開発戦略や目標達成シナリオに関する調査方法
 - 1 2050年の目標候補案からバックキャストした2030年時点での具体的な達成目標をどのようにして明らかにするか。
 - 2 2030年時点での達成目標に向けて重点的に取り組むべき研究開発テーマや、それにかかる研究開発動向について、どのような調査を経て明らかにするか。
 - 3 本調査を通じて定める2030年時点での目標達成後、2050年におけるムーンショット目標達成に至るまでのシナリオを、どのような調査を行うことで明らかにしようとしているか。
 - 4 国際ワークショップなど、世界中から英知を結集してさまざまなアイデアの融合を図る場を設けるにあたっては、どのような形式で、どのような方々を対象として意見交換を進めるか。
 - 5 提案する目標案の科学的な実現可能性、検証可能な達成基準をどのようにして本調査で明らかにするか。
 - 6 調査結果を踏まえて調査報告書を作成するにあたって、どのようなまとめ方を行い、ムーンショット目標の決定に向けて訴求力のあるものにするか。